令和5年度

長生小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

基礎・基本の確実な定着を図り，主体的・対話的に学び合い，
表現できる児童の育成
～学びの質を向上させ，主体的に活動できる児童の育成～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
岩倉　和代	校長：谷中　英昭　　教頭：勝瀬　秀成 教務主任：浮橋　未夏 研修主任：仁木　良江 生徒指導主任：柳本　晃佑

校長

谷中　英昭

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や研究授業等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

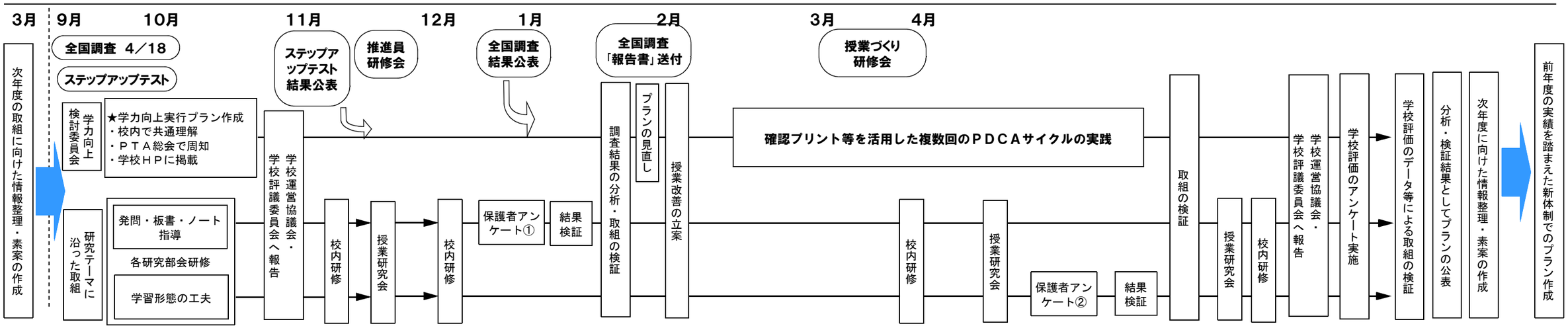
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能の定着は一定の成果が見られる。 ●初めての文章を的確に読み取ったり，理由や根拠を述べて分かりやすく伝えたりすることに苦手意識がある。 ●読書の質に個人差があり，語彙の少ない児童が見られる。	・基礎・基本の定着を図る。（単元テストで８割回答できる。） ・様々な文章に親しみ，作者や筆者の意図を的確に読み取ることができる。 ・様々な種類の本に触れ，読書の質を高めることができる。	・フラッシュカードや小テスト，チャレンジタイムを活用し，繰り返し学習させる。 ・宿題に文章問題を増やす。 ・「なぜ」「どうして」など理由や根拠を明確にさせるように教師の発問を工夫する。 ・使う言葉を指示して文を書くなど，語彙を増やす機会を設定する。	・学力向上確認プリントを用いて，初読の文を読み取る学習を増やす。	・学年が進むにつれて難易度が上がり、８割回答が難しい児童が出てきた。 ・条件を指定して本を選択させると、多様な読書ができるようになってきた。 ・読み聞かせや並行読書をし、あらすじや大事な項目を読み取る力が伸びた。 ・言葉集め等を積み重ね、語彙が増加した。	・問いに正確に回答できるように，引き続き基礎基本を徹底する。 ・配当漢字を反復して練習させる。 ・読書や新聞の活用で、語彙力を高める。 ・生活チェックカードを用いて基本的生活習慣定着や自主学習の質の向上を図る。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○雛型があればそれを活用して表現できる力はある程度身に付いている。 ○タブレット使用に慣れ，学習支援ソフト活用に意欲的に取り組んでいる。 ●与えられた材料から思考判断したり，自分の考えを的確に表現したりすることの苦手な児童が多い。	・雛型を使い，自分の考えを言うことができる。 ・文章や表やグラフを正確に読み，判断するのに必要な材料を的確に選択することができる。 ・タブレットの学習支援ソフトを活用し，自分の考えの表現や自他の比較ができる。	・国語や算数の教科書の雛型を使い，自分の意見を書いたり言ったりさせる。 ・表やグラフの読み取り方を繰り返し学習させる。 ・日記等で長文を書くことに慣れさせる。 ・タブレット教材の使用場面を授業中に設定し，学習状況を教員の端末で把握する。	・子ども鳴潮の視写に加えて，自分の感想を書く学習を行う。	・文章を書く力が伸び、国語の初発の感想やテーマ日記で長文を書く子が増えた。400字程度ならひな型を使って分かりやすい意見文が書ける。 ・考えて書く時間を十分とることで自分の考えをもてた。	・表やグラフの読み取りに慣れさせる。 ・テーマを決めたり相手意識をもたせたりして、書く機会をつくる。 ・根拠や意見を正しく伝えるための対話的な活動の機会を多く取り入れる。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自学ノートの内容を工夫して取り組む児童がいる。 ○興味関心のあることに意欲的に取り組む。 ●自ら課題を見つけたり，学習・体験から次の課題を見出して取り組んだりすることは不十分な傾向がある。	・課題解決のために自分の考えを持ったり，進んで意見を述べたりすることができる。 ・タブレットを使って記録を取り，分かりやすい資料の作成や発表・提示に意欲的に取り組むことができる。	・ペア学習やグループ学習を活用して，自分の意見を話す活動を多くとる。 ・タブレットの機能を活用し，主体的に学習に取り組める機会を増やす。 ・道徳等の授業でなりたい自分（将来の夢）を明確にし，そのためには今どうするべきかを考える機会を増やす。	・タブレットを使って，自分の調べたことや考えたことを友だちに伝える活動を増やす。	・ペア学習やタブレットで考えを共有する活動を増やし、発表が増えた。 ・考えを書いてから話し合いをし、意見が活発に出るようになった。 ・家庭学習の意欲が高まり自学ノートを工夫する児童が増加した反面、内容の薄い児童も見られる。	・体験→思考→体験→思考（まとめ）というような授業の型を作っていく。 ・学習規律や学習習慣を定着させる。 ・低中高で ICT の到達目標を決めてプログラミング等のタブレットの操作の練習を行う。

令和5年度　学力向上ロードマップ